

第152回 大原美術館 ギャラリーコンサート



クイオートル・ディオティマ

弦楽四重奏団

Quatuor Diotima

コンスタンス・ロンザッティ (ヴァイオリン) フランク・シュヴァリエ (ヴィオラ) ピエール・モルレ (チェロ) ユン・ペン・チアオ (ヴァイオリン)

2018年6月16日(土) 開場18:00 / 開演18:30

大原美術館・本館2階ギャラリー

全自由席 4,000円(税込)

学生シート 1,000円(税込)

※小学生~大学生対象・限定先着30席

チケット発売5月22日(火)9時~

お申込み・お問合せ

大原美術館

086-422-0005

*月曜休館

くらぶコンサート

086-422-2140

*土・日・祝日休業

世界をリードするホットなアンサンブル

フランスの実力派カルテット、ディオティマ弦楽四重奏団は、現代曲と古典を組み合わせる独特のプログラムと、優れた音楽性で室内楽シーンをリードしている注目のグループです。

パリとリヨンの名門音楽院で優秀な成績をおさめた4人の名手によって、1996年に結成。イタリアの作曲家ルイジ・ノーノの弦楽四重奏曲に由来する、古代ギリシアの女性哲学者“ディオティマ”の名を掲げ、世界的な作曲家たちと関わりながら、同時代作品を積極的に演奏しています。

ロンドンやベルリンの国際コンクールなど、これまで数多くの受賞を重ね、高く評価される彼らの熱いアンサンブル。大原美術館の名画が見守る会場で、音楽の呼吸やアイコンタクトの以心伝心を間近に感じていただき、4つの個性が響き合う“カルテットの醍醐味”を心ゆくまでご堪能下さい。

バルトーク / 弦楽四重奏曲 第2番 Op.17, BB75

望月 京 / Brains

シューベルト / 弦楽四重奏曲 第14番 ニ短調 D810

「死と乙女」



ディオティマ 弦楽四重奏団 Quatuor Diotima

写真左より

ピエール・モルレ (チェロ) Pierre Morlet, violoncello

コンスタンス・ロンザッティ (ヴァイオリン) Constance Ronzatti, violin

ユン・ベン・チャオ (ヴァイオリン) Yun-Peng Zhao, violin

フランク・シュヴァリエ (ヴィオラ) Franck Chevalier, viola

パリとリヨンの国立高等音楽院で一等賞を受賞したメンバーで構成され、1996年に創設以来、世界的に活躍する弦楽四重奏団。『ディオティマ』というグループ名は、ルイジ・ノーノの弦楽四重奏曲「断章、静寂、ディオティマへ」からとられている。(ディオティマとはプラトンの「饗宴」、ドイツの詩人ヘルダーリンの「ヒューペリオン」に登場するヒロインの名)

ラッヘンマン、ファーニホウ、細川俊夫などの現代を代表する作曲家たちと密接な関わりを持ちながら同時代作品を積極的に演奏。さらにアルベルト・ポサダス、ジェラルド・ペッソン、エマヌエル・ヌネス、ジェイムズ・ディロンら世界的な作曲家たちに新作を委嘱する一方、ベートーヴェンの後期の弦楽四重奏曲やフランスの作品、20世紀初頭、特にこの50年の間に生まれた作品なども得意とし、定評がある。ヨーロッパ各地の国際音楽祭や一流コンサートホールに登場しており、18世紀、20世紀初頭の作品と現代作品を組み合わせたプログラム・シリーズをパリなどで展開中。ロンドンやベルリンの国際コンクールで優秀な成績をおさめるなど多くの受賞歴があり、DRACセンター、Spedidamなど現代音楽を振興する組織や個人より支援を受けて活動を続けている。

最初の録音(ラッヘンマン/ノーノ)はチャールズ・クロス・アカデミーのCoup de Cœur賞と、2004年のDiapason d'orを受賞。ヤナーチェク特集のCDは2008年のDiapason d'orを受賞するなど、数多くが高く評価されている。また、新ウィーン楽派の弦楽四重奏曲全集(5枚組)とブレーズ「カルテットの書」が、結成20周年の2016年にリリースされ、ガーディアン紙、グラモフォン誌で高評を得る。

先頃ラジオ・フランス(フランス公共ラジオ)のレジデント・アーティストに任命され、今後3シーズンにわたり協力関係を得て活動していくことが正式に発表された。